

9 番 児 玉 受付番号4番、議席番号9番、児玉洋一でございます。

私からは、「スマートICを拠点としたまちづくり計画を」について質問をさせていただきます。

(仮称)山北スマートチェンジ(以下、山北SIC)は平成26年度から工事を開始し、当初予定では令和2年度の完成を予定していたものの、工事内容の変更等により令和5年度に工期延長が発表されました。

実質3年ほど工期がおくれることとなりますが、山北SIC完成後の周辺土地利用構想を含め、これまでここを拠点とした具体的な利活用計画が示されておりません。山北SIC開通により、交通利便性向上はもちろん、観光交流人口の増加や企業活動の活性化、救急医療や災害支援の迅速化など、当町や県西エリア広域的に多くの効果が期待できることから、山北SICを拠点とした具体的なまちづくり計画について、以下の質問をします。

1、道の駅「山北」の拠点整備に関して、平成30年12月議会の一般質問において、町長は今後、国・県との調整・協議を進めると答弁されているが、現在までの進捗と町としての展望は。

2、訪れる観光客やハイカー向けに、道の駅「山北」を拠点とした県立山北つぶらの公園や大野山までのハイキングコース及び案内板などの整備を進める考えは。

3、山北SIC周辺地域における土地利用構想には、広域交通利便性の観点から、中川温泉でとまることなく山梨県道志村や箱根町など南北へ抜ける幹線道路の計画も盛り込むべきと思うがどうか。

4、周辺土地利用構想という全体像だけではなく、清水地区や三保地区など地区別計画として位置づけ、詳細に計画を進めていく考えは。

5、丹沢湖エリアへ来訪客を呼び込むために、令和2年度で廃校になる三保小学校の跡地利用は、老朽化の進む支所機能を校舎1階に移転し、2階3階には、地域コミュニティスペースや企業誘致、また給食調理室やランチルームでは、ジビエ料理が提供できる食堂など、複合型施設として、管理運営していくなどの考えは。

以上です。

議 長 答弁願います。町長。

町

長 それでは、児玉洋一議員から「スマート I Cを拠点としたまちづくり計画をについて」の御質問をいただきました。

 初めに、1点目の御質問の「道の駅「山北」の拠点整備に関して、平成30年12月議会の一般質問において、町長は今後、国・県との調整・協議を進めると答弁されているが、現在までの進捗と町としての展望は」についてであります。道の駅「山北」は、県道76号線沿いに、県が平成9年7月に開設した道路休憩施設で、平成25年6月のリニューアルオープンから6年が経過しております。

 道の駅として求められる機能は、「休憩機能」、「情報発信機能」、そして道の駅をきっかけに活力ある地域づくりをともに行うために「地域の連携機能」と言われており、町では、道の駅「山北」をさらに充実した施設とするため、さまざまな検討をしております。

 休憩機能の一つとして、駐車場の問題がありますが、県道の下にあるオアシス公園は河川区域内に位置しておりますが、道の駅「山北」の川側の駐車場からおりるスロープも設けられていることから、新東名高速道路の整備工事完了後に河川占用許可を得て駐車場としての利用を県と協議しております。

 さらに、地域連携機能として、河内川ふれあいビレッジの敷地の一角に、この機能を持たせることができるかどうか、地域の方々や関係機関と検討していきたいと考えております。

 次に、2点目の御質問の「訪れる観光客やハイカー向けに、道の駅「山北」を拠点とした県立山北つぶらの公園や大野山までのハイキングコース及び案内板などの整備を進める考えは」についてであります。道の駅「山北」を拠点に県立山北つぶらの公園や大野山へ向かう新たなハイキングコースなどを設定する際は、景観や歩きやすさだけでなく、保安林などの土地の規制などの状況についても考慮しなければと思っております。

 また、ハイカーなどが駐車場を占拠することになり、大きな問題が生じることも想定されますので、これらの課題を解決しない限り、道の駅「山北」を拠点に県立山北つぶらの公園や大野山へ向かう新たなハイキングコース等の設定は困難であると考えております。

 新東名高速道路の開通後は、シンボリックな橋梁や河川景観などを楽しめる

眺望スポットなども考えられますので、それらを取り入れた新たなルートについて検討してまいります。

なお、町では現在、県立山北つぶらの公園を拠点として、大野山へ向かうハイキングコースの整備を進めております。このルートは、公園区域内に整備された遊歩道と既存のハイキングコースを接続する計画で、次年度の供用開始を目指しており、案内板も合わせて整備していきたいと考えております。

次に、3点目の御質問の「山北S I C周辺地域における土地利用構想には、広域交通利便性の観点から、中川温泉でとまることなく山梨県道志村や箱根町など南北へ抜ける幹線道路の計画も盛り込むべきと思うがどうか」についてであります。 （仮称）山北スマート I C の設置により、期待される整備効果の一つに「広域的な地域活性化」があります。

これは、スマート I C という広域的な交通拠点が整備されることで、本町の持つ観光資源や産業経済のポテンシャルが向上するとともに、その波及効果が町域、県域を越えて広域的な地域振興が図られることが期待できるものです。そのためには、山北スマート I C を軸とした、国や県の直轄事業としての広域幹線道路網のさらなる整備が必要となってまいります。現時点では国、県において山北スマート I C の整備に合わせた新たな広域的な路線計画や改良計画の具体的な予定はありません。

このため、今回の土地利用構想には、南北に抜ける幹線道路の計画などを盛り込む考えはありませんが、町も特に町域を越えて、北へ抜ける道路の必要性については認識しておりますので、今後も引き続き、県等に御支援いただきながら、山北スマート I C を中心とした広域幹線道路について調査・研究を進め、国・県等への要望活動につなげていきたいと考えております。

次に、4点目の御質問の「周辺土地構想という全体像だけではなく、清水地区や三保地区など、地区別計画として位置づけ、詳細に計画を進めていく考えは」についてであります。現在策定中の土地利用構想は、山北スマート I C を中心とした直径およそ5キロメートルを検討範囲としており、それを3つのゾーンに区分して、それぞれのゾーンの特性を踏まえて取り組み方策として、想定される整備イメージを示しております。

このため、清水地区、三保地区など、山北スマート I C 周辺の地区別の土

土地利用については、今後、法規制などを含めそれらを精査した上で、町の総合計画や土地利用計画と整合を図り進めていく考えであります。

次に、5点目の御質問の「丹沢湖エリアへ来訪客を呼び込むために、令和2年度で廃校になる三保小学校の跡地利用は、老朽化の進む支所機能を校舎1階に移転し、2階3階には、地域コミュニティスペースや企業誘致、また給食調理室やランチルームでは、ジビエ料理が提供できる食堂など、複合型施設として管理運営していくなどの考えは」についてであります。学校施設の跡地利用で課題となることの一つに、学校施設の整備に国からの補助金を活用しているということがあります。三保小学校では、校舎の耐震化工事や特別教室へのエアコンの設置工事など、教育環境の改善や充実を図るため、国の補助金を活用して整備してまいりました。この補助金はあくまでも学校施設の整備のためであり、学校施設でなくなった場合は、補助金の返還や補助金相当額の教育振興のための積立等の措置が必要となります。

また、補助金と同様に起債も活用しており、耐震化工事については、償還が終了しておりますが、エアコンの設置工事については、今年度の借入れのため、今後、借入先との協議も必要となってきます。

このように、三保小学校の跡地利用については、国の補助金等の課題もありますが、地域振興を第一に考え、検討委員会等で地域の皆様と意見を交換しながら、よりよい利活用に向けて考えてまいりたいと思っております。

議長 児玉洋一議員。

9 番 児 玉 児玉でございます。再質問のほうさせていただきます。

初めに、今回の山北スマートICの関係ですけれども、先日から議会報告会並びに意見交換会も1月27日から2週間、全6会場でやらせてもらいました。中には、行政職員の方に参加していただいた方もいらっしゃいます。改めて、御礼申し上げるところでございますが、その会場の中でも、ほぼ全会場でもと言ってもいいと思いますけれども、このスマートICのこの話題が出てくるんですね。もちろん、総務環境常任委員会のほうでも、重要課題として、今テーマに位置づけていますけれども、結局、このスマートICができて、山北町はこれからどうなっていくのかと、周辺土地利用構想とっているけれども、具体的に何ができるのかとか、当初のスケジュールでいけば、

令和2年度の完成といったところもありましたので、そもそも、こういった時期になっても、具体的な構想なり計画なりというものが決定してきていないと、そのあたり、かなり町民の方は不安に思っているといったところもあったので、ここはあえて聞くまでもないかもしれませんが、改めて、町長のほうから、このスマートICができることで、この山北町は、これからどういった利用者を見込んでどう活用していくのか。当初の計画がおありでしょうけれども、その辺から少し考えなり変更なり、多少あるかもしれませんが、そのあたり、改めてちょっとお聞かせいただければと思います。

議
町

長 町長。

長 当初も、令和2年に、オリンピックまでにというようなかけ声でやってまいりましたけども、そういった意味では、3年ほど延びるというようなことでございます。

また、さまざまな、当初、このスマートICができるかできないかというようなところから始まったときも、そのときの予想の車両が大体1日1,700台ぐらいだったというふうに記憶しております。そういったようなときから、圏央道が開通して、そして、もう一部新東名が開通している区間がございます。また、そういったような利用のデータを見ますと、1,700台ぐらいではなくて、もっとふえるのではないかとこの予想もしております。

そういったときに、山北町の玄関口になる、このスマートICでございますので、今まで旧東名については山北というような、あるいは、それ連想させる言葉がなかったわけですが、今度、そういった意味では山北になるどうか分かりませんが、必ずしもそれに近いようなスマートICができるのではないかと考えています。

そういったようなことを考えますと、50年に一遍か、100年に一度か、わかりませんが、そういったような大きなチャンスの中で、皆さんと、じっくり話し合いながら、その利用方法あるいは土地利用についてはやっていきたいというふうに思っておりますので、早く早くという気持ちは、私もございますけれども、そういった意味では、かなり大胆なことを考えていかないと、現実的には難しいのではないかと。

前にも申し上げましたとおり、連結許可を国交省のほうに行ったときに、

一番先に指摘されたのは、清水橋のところ、これじゃだめだよと、こんなものじゃとってもしゃないけど難しい、もっと広げろというようなお話をいただいて、その金額についても、簡単に40億とか、そういう金額をぽんと出されました。そういったようなことを考えますと、やはり土地利用については、かなりいろんな考えもありますし、また、それに制約等もございまして、若干皆さんには遅くなって申しわけないところがございすけれども、慎重に協議しながら、そして町にとって一番いい方法を考えていきたいというふうに思っております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 今、町長のほうから御答弁ありましたけれども、当初の1日1,700台といったところの計画、ここの部分は、現時点で何か変更等はございますか。

議 長 新東名対策室長。

新東名対策室長 計画台数は1,300台だけだと思います。現時点では変更ございません。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 1日1,300台ということですね。それと、平成30年の私の質問にもありましたけれども、平成30年12月議会では、町長、結構、具体的な部分に切り込んで御答弁いただいているようです。

まず一つ、国道246の拡張とか、その辺のお話もなされているようです。今、清水やまなみ橋の話がありましたけど、そこから右折して246に出るわけでしょうけども、そのあたりが、やはり整備が必要だというお話もありました。そのあたり進捗とか、お考えどうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 当初、本来であれば、やまなみ橋だけでなく、もう一本、246に直接アクセスできないかという計画もございました。しかし、地権者の方の御理解を得られなくて、片側のほうになってしまいました。そういった意味では、やはり児玉議員の御指摘のとおり、箱根とか小田原、あるいは、もちろん道志とかそういったようなところにアクセスできる立地条件でございますので、そういった意味については、そういったことも含めながら、ぜひとも、246とか、そういったような問題の渋滞も含めながら、一番いい方法を考えていきたいというふうに思っております。

議 長 児玉議員。
9 番 児 玉 すみません。ということは、まだ具体的な協議は進められていないという
解釈でよろしいでしょうか。

議 長 町長。
町 長 はい、そのとおりでございます。

議 長 児玉議員。
9 番 児 玉 児玉です。

そうですね。いろんな部分でおくれているといいますか、先ほど、御答弁
ありましたけれども、何しろ、そんなにおくれているような認識はしている
けれどもみたいなお話ありましたけども、やはり、町民としては、どうしても
あのあたりがどうなるのかといったところは、ある程度のスケジューリン
グ感を持って、いつまで、何が、どこにできるのか、少なくともどういった
効果があるのかといったところだけは、何らかの形でリリースをしてほしい
といったところの希望もあるわけです。

そういった中でも、一つの問題でもありますけれども、スマート I C から
おりてきて、一番最初に目にするのは、道の駅並びに左側にあるキャンプ場
といった形になってくるかと思うんですけれども、そこをそのまま素通りと
いうわけにはいかないと思うんですよね。やはり、必ず一旦ワンストップし
てもらおうというようなことを考えていかなければいけないんじゃないかなと
思うんですけども、これも30年12月議会で、町長のほうから、橋をかけるで
あるとか、あとは駐車場スペースの話は、今回の一次答弁でもございました。
その部分の拡張ですとか、町おこしにつながるように、国や県とも協議調
整をしまいたいと、そのあたりの御答弁もあるようです。

あれから1年経過してまいりました。道の駅の拠点といったことに関して、
具体的な、何か整備計画進んでいるか、進捗を確認したいんですが。

議 長 商工観光課長。
商 工 観 光 課 長 道の駅につきまして、やはり、何がやっぱり一番の問題点になっ
ているのかといったところを内部でも協議させていただく中で、やはり駐車場の
問題が大きいだろうというようなことから、道下にあるオアシス公園、こ
れを占有許可をとって駐車場としていきたいというようなことで、県のほ

うとも協議のほうはさせていただいております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 今、現行のキャンプ場ですか、あと今は工事業者の事務所という形になっているかと思いますが、あのあたりのエリア、先日の台風で大変な災害が起きておりますけれども、あのあたりのエリアを駐車場というか、道の駅というような形で整備するようなお考え、おそらく、去年の町長の御答弁では、あのあたりから現在の道の駅に橋をかけてみたいな多分お考えがあったのかと思っておりますが、そのあたりのイメージというんですか、そういったところは、今お考えはどうなのかいったところ、どうでしょう。

議 長 町長。

町 長 いろんな考えがあると思います。基本的には、道の駅として、非常に狭いエリアでございますので、駐車場の問題あるいは、また対岸にあります、ふれあいビレッジのところはどういうふうにご利用できるか、また今回も、土石、砂が来て埋まってしまいましたので、やはり川の問題が非常に大きな問題ではないかというふうに思っておりますし、そういったようなことも含めながら、道の駅については検討してまいりたいと思います。

一つには、防災の駅というようなことも、今国のほうから提示をいただいておりますので、そういったあらゆる方向を検討材料に加えながら、可能であれば、そういった部分も含めながら検討して、よりよいものにしていきたいというふうに思っております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 あと答弁の中でも、結構、地元の協議組織とか、そういった形で、地元、地元で考えてもらってというような、いいアイデアがあればというような御答弁もあるんですね。

ただ、地域とか、地元協議体はあるにはあるんです。ただ、いろんなアイデアもすごく出るんですよ。ただ、やはり、そこにはいろんな法規制であったり、さまざまなハードルがあって、最終的にはうまくいかなかったみたいな話も出てきます。

そんな現状があって、先日清水の意見交換会というのが、あの中では、結構町は地元には投げられるんだけど、なかなか、もう体力的にも難しいよとか、な

かなか、いいアイデアは出ねえよというような話もあって、ちょっと難しいんだよというようなお考えも伺うのが現実あります。

そんな中で、やっぱり地元の協議会に、少し町の職員であったり、その町の職員が入って、一緒に議論をするような協議組織をつくるであるとか、例えば、そういうのが難しいのであれば、労力とかで難しいのであれば、例えば外部パワーというのですか、有識者的なところを一人入れたりとか、何かその辺の組織化というのですかね、いろんなもつと町民にわかりやすい具体的な検討ができるような組織体をつくっていったほうが、これからスピード感を持ってやっていけるんじゃないかなと思うんで、そのあたりお考えどうでしょう。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、町で持っている町有地に関しては、清水も一緒であるとか、小中学校あるいは保育園というようなところにございますけれども、それ以外はほとんど民有地でございますので、いろいろなことをやるにしても、そういったような協議会というのですか、地域の皆さんとやっていくのは、当然だというふうに思っておりますので、そういったことも含めながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 道の駅の関係なんですけども、道の駅は令和元年の6月現在で、全国には1160駅あるようなんです。そんな中で、スマートICと直結はしていないんですけど、例えば山北のように、おりてから少し隣接というのか距離があって、道の駅があるというような箇所も幾つかあるみたいなんです。

そんな中では、これはちょっと山北とは性質が違うんですけども、例えば国交省なんかでは、このスマートICを利用して、道の駅に立ち寄ってもらう利用客、そういったことに高速1回おりちゃうと料金が変わってくるので、それをスマートICを使って、また、そのスマートICに乗っかってくれれば同額料金でみたいな、そういうサービスなんかも実施しているなんていう話もあるんです。

先ほど言いましたように、山北はハーフなので、東京から来て、また東京に戻るの、今のようなことは当てはまらないかとは思いますが、例

えば、いろんなサービスが、国も県も考えていっているんだと思うんですけど、そのような話というんですか、国とか県からの何か、利活用についての、道の駅を活用するに当たっての何か協議みたいな、あとは支援が、実は、こんな支援があるんだよみたいなアイデアがあれば、お聞かせいただきたいんですが。

議 長 商工観光課長。

商工観光課長 道の駅につきまして、今上部の団体のほうからは、例えば防災の拠点というような話で、防災機能を高めていくような話がありますけれども、そのほかの今議員さんがおっしゃったような話については、ちょっとうちのほうには入ってきてございません。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 そうです。何度も言いますけど、あそこ、スマートインターをおりてきたら、道の駅がぼんとあるわけですから、何かうまく活用できるようなものが見えてくるといいかなんていうふうに思っています。

あとは、2つ目の質問にも関連してくるんですけど、例えば、やっぱりスマートICを自身は要望型インターといったことですから、諸先輩方のいろんな思いがあって、連結許可を得たわけでしょうから、例えばいろんな問題、土地、法規制があったりとか、急傾斜地だからとか、農振地だからとか、いろんな理由があって、結局何もできませんで、スマートインターだけできましたというんだったら、ちょっと当初の要望型といったところから少し変わってきちゃうかと思うので。やはり、この道の駅を拠点として、来訪客をどう導いてくるのかといったところになるんじゃないかなとなんて考えているわけです。

その仕掛けの一つとして、2つ目の質問にもありますけども、案内板の設置であったり、あとはハイキングコースの整備と、ちょっと現状では難しいといった答弁でございましたけれども、そのあたりを利用できればいいかなんて思っています。特に、お金が落ちる仕組みを、仕掛けをちょっとつくっていく必要があるかなんて。

あと、案内板なんかで言えば、先日の子ども議会でも、河村城のほうでしたけども、河村城の関係で案内板が少ないから案内板を設置して、もっと積

極的に利用者をふやすべきみたいな、子ども議会でもありました。案内板は、結構有効なんじゃないかなんてというふうに思っているのですが、そのあたり、観光振興に対する広報なりPR、その辺がちょっと少ないかなんて思っているんですけど、このあたり、ぜひ総合計画にもあるようにハイキング、特に、都夫良野のほうに車をとめる人もいますよ。道の駅にとめて、あそこから大野山に行くルートも、もちろんあるかもしれませんが、おっしゃるように答弁でもあったように、駐車場の台数がちょっと多くなっちゃって難しいかもしれないということの考えもあるんですけど、現状では、つぶらの公園にとめて、ハイキングなんていう方もいらっしゃるのですが、そのあたりいろんな観点から、こういったところの設置は進めてもらいたいと思いますけれども、そのあたりのお考え、御答弁には、つぶらの公園からのというのがありましたけれども、改めて、道の駅を拠点として、そのあたりからの考え方、どうでしょうか。

議
町

長 町長。

長 町といたしましては、さまざまな今利用できるものとしては、可能かどうかはわかりませんが、場所的に言えば、まずおっしゃるような道の駅があります。それから河内川のふれあいビレッジ、そして上に上がって、つぶらの公園というのがございます。これらについては、どのように活用していくかというのも、もちろん、これから大事なことだと思います。

それから、当然、今東急さんが使っている小学校・中学校のところをどうするのか。あるいは保育園について、どうするのか。そして、また可能かどうかわかりませんが、ちょうど今スマートインターのトンネルの上にある宿舎がございます。あれらは借りることができないかどうか。そして、また近くにある今度の河内川の大きな橋が、鹿島さんが架けておりますけれども、当然、あれを見る景色のロケーションのところをどこに設置するか、また、あの基礎部分に入っているトンネルについては、どういうふうな可能性があるのか、そして、上にある新城跡はどういうふうになるのか。そういったさまざまな町としての資産はあるというふうに思っています。

ただ、それが利用可能かどうかは、これからも慎重に検討しながら、そして、もし利用が可能であれば、それらを使って地域おこしを最大限していき

たいというふうに思っておりますので、そういったようなさまざまな問題について、また皆さんから御提案をいただければ、中日本さんとか、さまざまところへ要望して、ぜひ、その可能性を探っていきたいというふうに思っております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 非常に希望のある御答弁いただきました。

やはり、あのあたりには、いろんな魅力がたくさんあるスポットが豊富なんだと思います。ただ、やっぱりスポットをスポットで終わらせてしまうと、やはり周遊といった部分ですか、それができないんじゃないかなんて思うので、そういうスポットをちゃんとめぐれるようなコース設定なりなんなりをして、いろんなスポットでポイントじゃないですけどやって、最終的に、道の駅に帰ってきたら、何かお土産の割引ができるであるとか、そんな少し御興味を持てるような仕掛けをつくってもらえたらいいかなんていうふうには思っています。

ぜひ、そのあたりを、先ほど申し上げました地元の協議会を含めた、いろいろな行政なり外部パワーをちょっと、エッセンスを交えていただいた組織をつくっていただいて、魅力あふれるまちおこしになっていけるような、あの辺のエリアをちょっとつくっていただきたいというふうに思っております。

それでは、3つ目の質問のほうに移ってまいりますけれども、土地利用構想といったところですが、これは、先日の全員協議会でも素案の部分の説明いただきました。

先ほど、第一次答弁のほうにもありましたけど、やはり、なかなか南北の構想を位置づけるのは、現状では難しいのかなというようなお話であるものの、町長自身も必要性は認識しているといったところで、前向きな御答弁だったのかなと思うんですが、やはり、第5次総合計画でも、このあたりを示されているんですね。

だから、そのあたりも幹線道路の整備といったところで、幹線道路ネットワーク形成が必要と、うたっているといったところであるわけですから、例えば、北のほうには山梨県、あとは相模原の津久井湖なんかもあると思います。そういったところ、それから、南は県西地域、エリア全体であったり、

行く行くは箱根のほうまで足を伸ばすというところを、例えば構想の少しゾーニングの中にでも落とし込めるようなことがあってもいいんじゃないかなんて思って質問させていただいたわけなので、このあたり、ちょっと難しいとはゆえ、どうでしょう、何かお考えがあればお聞かせいただきたいんですが。

議 長
町 長

町長。

先ほども幹線道路については申し上げましたけども、特に、箱根方面にアクセスが、南箱道路とか、そういったこともでき上がれば、アクセスが非常によくなるのではないかというふうに思っておりますので、私としては、そういうようなイメージを起こさせるようなスマート I C の名称なんかも、半分冗談でも、山北箱根口とか、そういったような名前がつかないかなとか、そんなようなことも考えておりますけれども、当然、その延長線上には、中川から山梨あるいは津久井のほうというようなことも、当然考えられるというふうに思っています。

さまざまな課題があるというふうには思いますけども、ぜひとも一番いい方法を、町といたしましても積極的に進めてまいりたいというふうに思っています。

議 長
9 番 児 玉

児玉議員。

今回の土地利用構想のゾーニングの中には落とし込めないのかもしれないけれども、やはり、この先スマート I C を拠点とした交通軸といったところの観点から、やはり東西だけじゃなくて、南北と。南北ルートの交通軸をしっかり位置づけていくと。ここの土地利用構想の中でなくてもいいので、別のところで、こういう計画が盛り込まれていけばいいかなんて考えています。

それと、これもごめんなさい、前回の平成30年の質問でもあったんですけど、いろいろ第3次土地利用計画なんていうのがあるんです。それとは別に、やはりスマート I C の関係についても、それとは別に策定していくような考えがあるという話がありました。これは、おそらく現在の土地利用構想案といったところがどんどん落とし込まれていくのかなというイメージなんですけど、そのあたりお聞かせいただきたいんですが。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 現在策定中の山北スマート I C 周辺土地利用構想についてなんですけれども、議員さんおっしゃられるように、基本的な考えの中で、総合計画、それと、あと第 3 次の土地利用計画、これがベースになっています。基本的には、この上位計画の下に位置する形で、スマート I C の土地利用構想を策定する考えでございますので、当然、総合計画の後期計画と、あと 3 次土地利用計画と整合を図った中で策定をしているというような状況でございます。

はい、そうです。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 別にといったところで理解をいたしました。

ちなみに、その今の計画がリリースされるのはいつぐらいのタイミングを。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 おおむねまとまっておりますので、まだ案の段階ではございますけれども、今回の定例会の最終日の全員協議会の中で、案の段階で御説明をさせていただきたいというふうに考えております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 ごめんなさい。ゾーニング図的な A 3 が 2 枚、前回素案の説明ありました。それとは別に細かな詳細の計画があるという。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 現在、概要版とあと全てが網羅されている冊子の計画の案ができてございますので、説明については、概要版でおおむね網羅されておりますので、そちらで説明をさせていただきまして、御意見等を伺って、最終版については若干厚目になりますので、それについては、また後日お渡しをしたいというふうに考えております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 はい、理解いたしました。そうすると、おそらくこのあたりが、おそらく、これから私が再質問させていただくのは、もしかしたら盛り込まれてきているのかもしれないですけども、今回ちょっと再質問用意していたがあるので、4 つ目の質問のほうにも関連してくるかもしれませんけれども。

この全体構想は、全体構想という形だとは、土地の基本構想、あと今おっしゃられた、いろんな部分が落とし込まれた計画、それはわかるんですが、資料に、今これしかなかったもので、第3次の土地利用計画から見ると、やはりこの新東名、この山北スマートICの供用開始により新たな企業誘致が見込まれ、雇用の確保や居住人口の増加が期待できるといった形で書かれています。ここの部分について、やはりどこに雇用が確保されて、どこに居住人口の増加が努められるのかといったところが、もしわかったらお答えいただきたいんですが。

議 長
企 画 政 策 課 長

企画政策課長。

スマートICが整備されることによりまして、雇用の確保という文言が土地利用計画のほうに入っております。第3次土地利用計画を策定した段階で、まだ平山工業団地あるいは丸山の現在も清水建設さんにお貸ししてございますけれども、そちらの土地の関係ですとか、そういったところが企業さんを誘致する土地として想定されるといったような形で、土地利用計画のほうには記載しております。

ただ、ここで、平山工業団地の関係なんですけれども、1社企業さんが決まりそうな状況でございますので、現在、町のほうで、町有地として確保している土地というのが、新東名高道路の関係で貸している土地が非常に多くございます。

ですので、そういった土地が新東名の工事完了後に町有地として、企業さん呼び込めるような土地になるというふうに考えておりますので、そういった意味合いで御理解をいただきたいというふうに考えております。

議 長
9 番 児 玉

児玉議員。

今、平山工業団地のほうがありました。であるならば、ゾーニング図に、南にこう矢印のルートのものを載せるみたいな形、そうすると南北の連携も生まれてくるんじゃないかな。企業誘致はそこになるんですよみたいな、そういったところのお考えどうでしょう。

議 長
企 画 政 策 課 長

企画政策課長。

以前、全員協議会の中でお示しさせていただいたゾーニング図があったかと思いますが、その中でインターを中心にして、北の方面、丹

沢湖の方面ですね。そちらのほうに、人が流れていくというのが1点。それと、あと小山町のほうに向かって人が流れていくというのが1点。最後に山北の中心市街地、こちらのほうにも新たな交通軸ができるということで、こちらのほう、企業さん、多くございますので、そういった意味で山北方面。あと河村城址・洒水の滝、洒水の滝も遊歩道が整備されますので、多くの方が訪れるのではないかとといったような観点で、山北中心市街地のほうにも矢印を入れさせていただいているというような状況でございます。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 今の件については承知をいたしました。

あと、もう一点、土地利用の利用検討ゾーンの設定といったところが、3次の土地利用計画の中に盛り込まれていますが、利用検討ゾーンには、都夫良野、それから塩沢ですね。このあたりはスマートIC、あの辺の周辺に当たるのかなと思っていますが、ちなみに都夫良野ですと、研修所とか、観光交流施設なんかに想定ができると。塩沢については製造業等ができると。利用検討ゾーンとって、これから利用検討に値するかどうか考えるよといった話になってくるゾーンだと、予定地だと思うんですけど、ここが谷峨の前耕地がああたりを当たってくるのかな。あと用沢、谷峨の前耕地なんかでいうと、製造業等となんて書いてありますね。あと用沢なんかは、観光交流施設等と書いてあります。このあたりのイメージというか、進捗というか、お考え、現時点でお持ちのところございますか。

議 長 企画政策課長。

企画政策課長 土地利用計画のほうに載っております利用検討ゾーンの関係なんですけれども、利用検討ゾーンにつきましては、御案内のように用途地域ではなく、白地のところで用途がかかっていないような地域になってございます。その地域につきましては、町のほうで利用検討ゾーンを設定して、その中で土地利用の規制を図っているということで、利用検討ゾーンに設定してある土地については、想定する機能という形で、今児玉議員がおっしゃったように観光的な施設ですとか、あるいは住宅、企業さんをお呼ぶような土地、そういうような形で計画をつくっております。ですので、基本的に、この用途に合わない部分、用途については、町のほうではお認めできないとい

ったような形になってございまして、そういった形で、これまで白地のほうも土地利用を進めてまいりました。

それで、おそらく今土地利用計画のほうをごらんになっているかと思うんですけども、現在、利用検討ゾーンは11カ所ございまして、実際に、まだ用途が、用途というか、土地利用が済んでいないところも幾つかございまして、大体おおむね、おおむねじゃないな、例えば神縄の利用検討ゾーンにつきましては、これ、ひだまりの里のところを利用検討ゾーンになってございまして、こちらについては、現在土地の用途が決まっております。それと、あと利用検討ゾーンでは諸淵も利用検討ゾーンになってございまして、こちらは諸淵工業団地を誘致してございまして、こちらも土地利用は定まっております。

それと、あと原耕地、こちらも利用検討ゾーンになってございまして、こちらについては、商業施設を誘致するための利用検討ゾーンですよということで、小田百さんとコメリさんが入っているところが原耕地の利用検討ゾーンといったような状況でございます。

それと、あと都夫良野の話も先ほど出ましたけれども、都夫良野については、今ちょっと1社、1社というか1事業者から若干引き合いがございまして、観光的な関係で、今調整を進めているといったような状況でございます。

それと、あと先ほど谷峨の前耕地ですとかというお話も出たんですけども、こちらは利用検討ゾーン予定地ということで、まだ利用検討ゾーンにはなっていない土地でございまして、こちらについては、ほとんど、まだ用途がかたまっていないといったような状況でございます。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 ちよっと時間の関係もあるので。そうですね。今の部分については、理解をしました。いろんな課題、それから利用検討ゾーン予定地なんかについては、これから利用検討ゾーンに格上げをしていくような話になってくるかと思うんですが、やはり地権者とか、そういった問題もあるでしょうし、イメージもまだ湧いてこない状況だと思うので、いろんな地域の団体や、繰り返しますけども、地域団体とかも含めて、行政なりいろんなところの組織体で、ある程度はスピード感を持って、いろいろ問題や課題の解決に努めていって

いただきたいというふうに思っております。

5つ目の質問のほうに移っていきます。これは、すみません、スマートICの関連質問という形から少しずれてしまうのかなというような感覚もあったんですが、やはりこの丹沢湖エリアに対して、お客さんを導く仕掛けの一つといったところで、今回こんな提案をさせていただいたといったところです。

何しろ、あと1年で三保小学校がなくなります。ここの三保小学校がなくなると、御存じのように、ビジターセンターとか、森林館とか、丹沢荘の跡地なんかも、まだまだ開発が何も進んでいないところで、どんどん、そういった施設がなくなっていってしまう。地域の人には外に出ていってしまうというような状況もずっと続いてきています。

非常に、今地域が元気がなくなってきているという現状でございます。この先どうなっちゃうのかといったところは、三保地域の中の意見交換会でもかなり多くの声がありました。重要なことは、この小学校がなくなっても、可及的速やかに次の利用が生まれるといったところが一番ベストなのかなんていうふうに思っているんですね。

そういった部分で、この支所の機能を、隣に三保支所が近くにありますが、あの支所も、もう40年ぐらいたつんだと思います。こういったところをうまく小学校のほうに移転、1階のほうに移転をして、今いる支所の方を、職員を管理運営も含めて、例えば2階3階をサテライトオフィスであるとか、コミュニティスペースであるとか、いろんな形に有効利用ができないかというような考え方なんですけど、その部分について、お考えがもしあればお聞かせいただきたいんですけども。

議 長 町長。

町 長 三保小学校の跡地利用については、当然、地域の皆さん等を優先しながら、その方法について、児玉議員がおっしゃるような方法も一つの方法だというふうに思いますが、町の基本的な考えとしては、まず小学校の校舎がございまして、それから給食のあれがあります。それから、体育館は、当然維持はするとは思いますが、どうするのかという問題も含まれます。さらには、将来的には幼稚園の問題も絡んでくるというふうに思っておりますので、そ

ういった意味で全体の利用方法、跡地利用をどのようにするのが一番ベストなのかということを含めまして、今三保支所のことを入れたらどうかというような提案でもございますけども、そういったことも柔軟に頭をやわらかくして考えていきたいというふうに思っております。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 今のこの進め方の中で、これから三保小学校がどうなっていくかといったところ、跡地利用も含めてどういった組織、また組織みたいな形がおそらくできて上がってくるんだと思うんですけど、いつのタイミングで上がってきて、どういった協議がなされていくのかといったところが、スケジュールリングも含めてわかれば教えてください。

議 長 副町長。

副 町 長 三保小学校のあれなんですけど、今現在小学校として機能してございます。それから、これは地域のほうから、もう三保小学校やめてほしいというお話があった段階で、これから今年度といいますか、令和2年度の中で、具体的に、ある程度地域の方々と、今は教育長いらっしゃいますけど、閉校の準備の関係で地域も大変忙しいと思いますので、その辺のところも並行してやっていければと思います。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 おっしゃるように閉校式なり閉校記念式典なり、そっちのほうに地域のほうは注力してやっているんだといったところは、もちろん、教育長を含めて町の関係者の方もいろいろ御助言をいただきながら進めている段階でございます。

やむなく学校は閉校といった形で地域のほうは要望していったわけなので、そのあたりは新たな組織を今後つくっていただいて、繰り返しますが、余り期間をあけることなく、小学校をすぐに利活用ができるような方策を考えていただければと思います。

最後に1点、このジビエの関係なんですけど、あそこでジビエの施設にすればおもしろいかなんていうふうに思ったんです。例えば、今松田とか、大井とかで連携協議、町長含めて入られているのかと思いますが、そのあたり、今の三保小学校の跡地の給食室をなんていうか、その辺の材料みたいな

のはどうでしょうか、この辺の御提案とか。

議 長 町長。

町 長 今、上郡のほうと秦野とかも入っておりますけれども、有害鳥獣のジビエということで、できるだけコンパクトのほうがいいなということで、今松田さんあたりで候補地を探されて、それについては協力しますよということで、我々としては大きくなければいいのではないかと。仮にそれが軌道に乗れば、当然、そこからのジビエの肉の提供とかで買い取りもできるかと思えますし、また小さければ、当然、三保のほうへまたつくるといようなことも可能性としてはあるのではないかというふうに思っています。

そういったようなことの中で、ジビエ料理が提供できるものが三保にあれば、また、それは非常に観光としても有意義ではないかというふうに思っておりますので、これらについては、近隣の市町と協議しながら、ぜひ進めていきたいというふうに思っています。

議 長 児玉議員。

9 番 児 玉 はい、児玉です。

ジビエの関係については、廃校を利用して、給食施設なんかも利用したジビエ料理、ジビエレストラン、何か話題性があるとおもしろいかななんて思ったんで、ぜひ前向きに御検討いただければと思います。

それでは、最後になりますけども、やはり、本来であれば今年度スマート I Cができる予定でしたと、ただおくれましたといったところで、周辺土地利用はまだ決まっていませんと。3年間というのは、多分あつという間になってくるとは思うんですね。やはり、スピード感を持って、より具体的な計画と町に及ぼす効果、そういったところが町民に示すことができると、それが何よりも重要なことだと思っています。

議会としても、このテーマについては、積極的に取り組んでまいり次第でございますが、最後に、町長から改めてスマート I Cを拠点としたまちづくりについて意気込みといいますか、お聞かせいただいて質問を終わります。

議 長 町長。

町 長 当初に申し上げましたとおり、当初、私が町長に就任したときに、スマート I Cをもうつくりたいということではあったんですけど、予算的にはかな

り難しいんだらうという、ハードルが高いというふうに考えておりました。それが現実にスマートができるというふうになりまして、そして、その後の経過を見てみますと、隣町の小山町さんは70ヘクタールの開発をしておりますし、御殿場さんもまたホテルとか、そういったようなアウトレットについても非常に大きな計画をしていらっしゃる。山北としては、その隣ということもございますし、そういったような雇用の受け皿あるいはまた観光の周遊性ですか、そういったものを生かしながらスマート I C を山北だけということではなくて、富士山・箱根一帯の回遊性を高める、そんなようなスマートインターにしていければいいなというふうに思っておりますので、ぜひ皆さんのすばらしい提案をお待ちしておりますので、よろしく願いいたします。